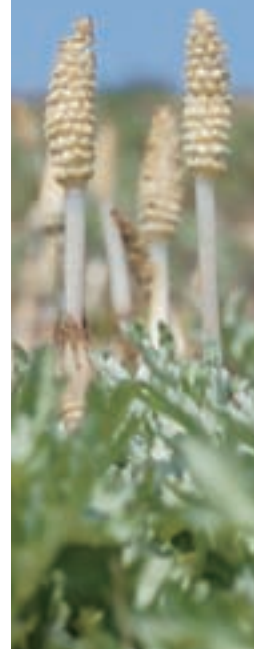


# 株式会社メディックグループ

第8期 報告書 2007.1.1 ▶ 2007.12.31





## バイオベンチャー、 メディビックグループの 可能性

これからの個別化医療や健康管理などに必須なものとして、ますます注目度が増しているファーマコゲノミクス(PGx)。メディビックは、この分野で業界を大きくリードしています。このような中、現在、国内外の投資家は当社をどのように見ているのでしょうか。

有力投資家のひとつであるジェネレーショングループのジョン・フー代表と橋本康弘社長が  
メディビックグループの可能性について語りました。

### アメリカ・シリコンバレーが育んだ夢

**フー** 橋本さんとはいくつか共通するバックグラウンドがあります。アメリカで教育を受けたことに加えて、時期は異なるかもしれませんがシリコンバレーを舞台にベンチャービジネスのあり方を学びました。

**橋本** シリコンバレーは日本ではマイクロソフトなどITベンチャーが育った場所として知られていますが、バイオビジネスでも新しい萌芽がシリコンバレーで誕生しています。最近では、バイオとITがコラボレーションするなど、さらに挑戦的な試みも始まっています。

**フー** 橋本さんが取り組んできたバイオの研究は、アメリカでは1970年代から注目されてきました。新しい研究成果

が生まれるたびに市場からもてはやされ、10年に一度くらいのサイクルでバイオブームが押し寄せています。最近も元気を取り戻しつつあります。

**橋本** 2000年にヒトゲノムがもつ30億の塩基配列がほぼ明らかになりました。ヒトのDNA配列は、医学や遺伝子工学の飛躍的な発展に貢献するといわれてきました。ガンやアルツハイマーなど遺伝子にかかわる疾病のメカニズムが解き明かされ、有効な治療法や医薬品の開発に結びつくと期待されています。

### バイオベンチャーを育てる一日米の土壌の違いとは

**橋本** バイオベンチャーに対する日米の投資スタンスに大きなへだたりを感じません。

**フー** 新しいビジネスを育てるには、時間がかかります。IT産業では、2~3カ月で新しい製品が登場し、一気に駆け上がっていく企業を幾度も見ました。でも、バイオは生命と直接・間接にかかわりをもつ産業だけに、承認などに多くの時間が費やされます。私ども投資ファンドのスタンスもおのずと息の長いものにならざるを得ません。



**橋本** 日本の株式市場は、サブプライムローンの問題発覚以降、潮が引くような低調な空気が支配しています。マザーズのような新興市場はとりわけ大きな打撃を受けています。日本の市場には有望な企業に投資をし、育てるといった視点が弱すぎると思うのですが。

**フー** 私どもはいまの状況をチャンスだととらえています。有望な企業を安く買えるだけでなく、じっくり見極めることができるからです。アメリカのバイオベンチャーでいえば、ゲノムに対する注目度の割合で、数百億円から数千億円の資金が流れ込むこともあります。新しいビジネス、新しい産業を育てることなしに日本の未来もないはずですが……。

**橋本** 日米のバイオ技術に大きな格差があるとは思えません。研究者の論文の数だけでなく、研究内容も決して見劣りするものではないからです。ノーベル賞に匹敵するような研究もいくつか生まれています。技術水準からいえば、日本は間違いなくアメリカの次の位置に立っています。

**フー** ただ、経営という視点から見れば、両者の土壌に大きな違いが認められます。日本はバイオベンチャーという存在に社



会全体が不慣れで無理解だけでなく、経営者もベンチャーの運営に習熟していません。

**橋本** 日本のベンチャー経営者には私のように学者や研究者から出てくるケースが少なくないのです。

**フー** アメリカでは、バイオベンチャーの経営者も他のベンチャー運営の経験をもっているケースがかなり見られます。また、資金を含めていろいろな意味で経営者に手を差し伸べる機関が存在します。

### いま、なぜメディビックなのか

**フー** 今日はよい機会なので、改めてメディビックグループの強みについて伺いたいのですが。

**橋本** 2003年にヒトゲノムの配列解読が完了しました。ヒトゲノムという最先端の情報を使って、それぞれの人が



生まれつきもった体質を判別することが可能となったのです。つまり、個々の人々がもつ遺伝子情報が判別できれば、それに合わせた医薬品の開発や医療方法が進み、

病気を治すことができるだけでなく、病気の予防もできると考えられています。私たちは早い時期からこうしたテーマに注目し、遺伝子情報を判別するような情報処理技術、解析技術などにしぼって情報の収集と技術の獲得に努めてきました。

**フー** 親から受け継いだ遺伝子が投薬された医薬品によりどのような影響を受けるかを研究する学問をファーマコゲノミクスと伺っています。私の見たところ、この分野の技術や情報の蓄積では、メディックグループが大きく先行しています。

**橋本** 遺伝子情報から患者の体質をつかみ、副作用を抑えて有効性を最大限に引き出せる創薬ができれば、患者さんと薬剤開発機関の双方に恩恵がもたらされます。私たちはこれを称してテラーメイド創薬と呼んでいます。

**フー** メディックグループは2000年の設立でしたね。

**橋本** これまではバイオマーカー（尿や血清中に含まれるとされる生体由来の物質の変化を測定することで特定の疾病や身体の状態を調べる）創薬支援事業をはじめ、創薬事業、投資事業の3つを行ってきましたが、2007年6月には、「新生メディックグループ2007」と銘打った中期プランを策定し、投資事業を切り離して、本業であるファーマコゲノミクスに経営資源を集中できる体制を築きました。

**フー** バイオマーカーではどのようなところまで分かるのですか。

**橋本** たとえば、糖尿病、高脂血症、動脈硬化症といった生活習慣病は、長年の不適切な生活習慣が原因となって起る病気です。早期に兆候が認められれば、生活習慣を改善するだけで、疾病のリスクを軽減し将来の発症を予防することができます。尿や血清中にわずかしか存在しないようなバイオマーカーをどこまで詳細につかむかで、その他の疾病にも対処できるはずで。最先端の質量分析計とデータの解析技術が進めば、疾病予防にも弾みがつきます。

**フー** ファーマコゲノミクスに関連した遺伝子解析などの受託はどこまで進んでいるのでしょうか。

**橋本** 当社では国内最大級の検体保管施設を保有する神戸市

## 対談者プロフィール

やすひろ やすひろ

橋本康弘（易周）

株式会社メディックグループ代表取締役社長



大阪大学医学部卒業。米ハーバード大学医学部に留学した後、7年間米ペンシルバニア大学にて助教、准教授として研究室を運営。1993年、米シンテックス社の日本研究所設立時に同研究所長に就任。その後、同社がスイスのロシュ社に買収されたために、米国ロシュ社のバイオ事業部長を兼務。1997年、グラクソヘルカム免疫研究所の分子生物研究部門と遺伝子部門の部長に就任し、ファーマコゲノミクスに基づく遺伝子解析を計画。2000年、北海道大学の客員教授に就任し、遺伝子解析の研究を行うと同時に㈱メディック〔現：㈱メディックグループ〕を設立し代表取締役に就任。

ジョン・フー

ジェネレーショングループ株式会社代表取締役



1967年、米国フィラデルフィア生まれ。プリンストン大学（専攻：経済学）を1989年に卒業し、香港、日本をベースにING Baring、CIBCなどで株式、デリバティブ商品などのディーラーを経験した後、Dresdner Kleinwort Wasserstein東京支店でHead of Tradingを務める。2002年にジェネレーショングループを設立。現在、同社代表取締役として、日本、アジアをベースに数々の投資案件を手掛ける。

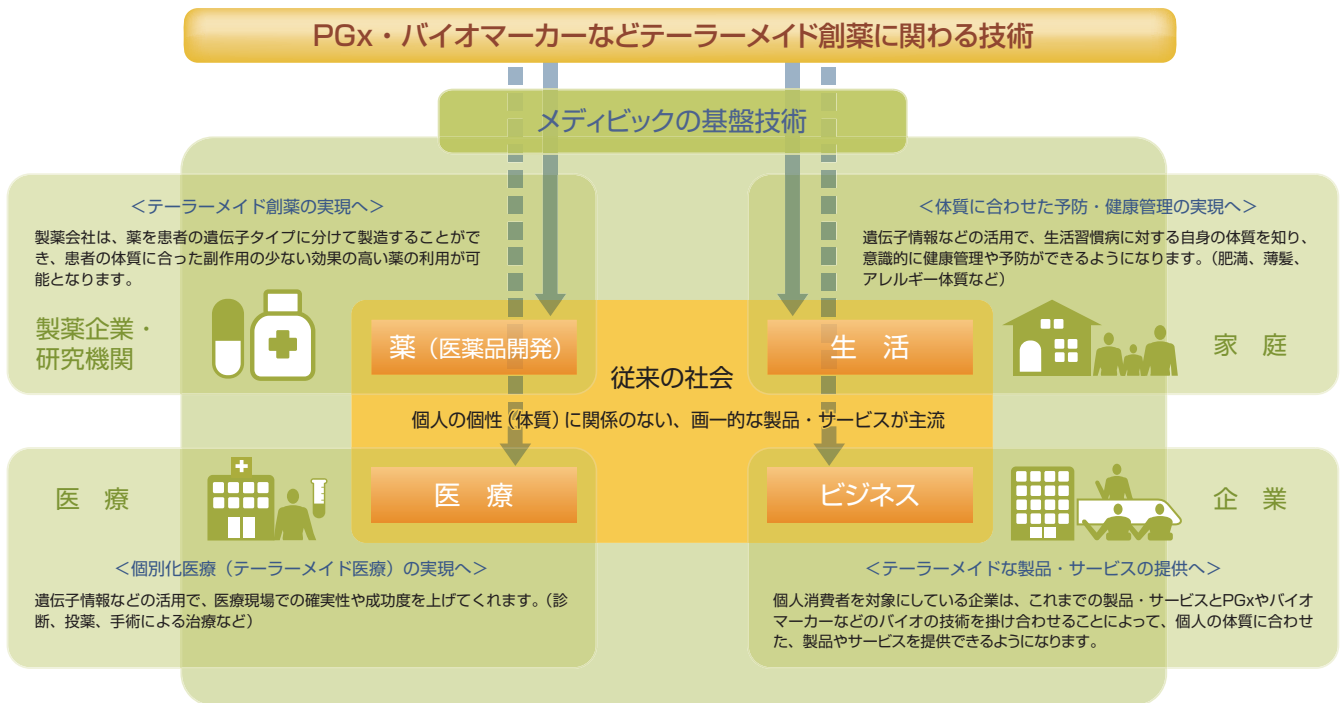
の公的機関との共同事業で検体バンキングサービスと、ファーマコゲノミクスを取り入れた臨床試験の開発戦略立案のコンサルテーションからデータ解析、新薬承認申請の補助業務まで、テラーメイド創薬の時代に向けて変化する創薬開発プロセスをサポートしています。これらに関連する製品の開発と併せ、すでに複数の特許も出願しています。

**フー** 大手企業と共同で慢性疾患の予測分析ツールを開発していますが、メタボリックシンドロームなどについても予測と予防の解析が可能でしょうか。

**橋本** もちろん可能です。これからの課題は、こうした技術力や情報の蓄積を収益のモデルにいかにつなげていけ

るかにあります。大手製薬メーカーや医療機関との連携も急速に拡大していくでしょう。

**フー** 私どもの投資ファンドはキャピタルゲインを期待するものですが、同時に社会や人々の役に立つという視点を失っていません。メディックグループのますますの飛躍に期待しています。



PGxやバイオマーカーを活用した、個人の体質に合わせた豊かな生活空間づくりに貢献してまいります。

## バイオマーカー探索・利用のための 基盤技術を大幅に強化しました

医療先進国である米国でのテーラーメイド医療は、FDAガイドラインの整備も進み、PGx試験を伴う治験も年々増加して、徐々に現実のものとなりつつあります。

一方、日本では、テーラーメイド医療のための環境の整備が遅れているのが現状です。

このような状況下、当社では、2007年、国内におけるテーラーメイド医療の早期実現を目指したバイオマーカー創薬支援事業の強化を進めて参りました。

ゲノム情報をもとにして個人の薬に対する反応を調べるのが「PGx試験」です。PGx試験を伴う臨床試験の総合的なサポートを目的に06年に本格稼動したPGxトータルソリューションサービスにおいては、国内大手製薬メーカーや外資系製薬メーカーから継続的に受注を獲得しています。

PGx試験を伴う臨床試験のプロトコル作成支援から、検体輸送、神戸市と共同事業で提供しているバンキング

と呼ばれる長期の検体保管、受託遺伝子解析、データマイニング技術を用いたデータ解析までの各種サービスを統合し、トップレベルの品質のサービスを提供していることで、主要顧客である製薬メーカーの皆様から高い評価を頂いております。07年は、ラボ機能を強化し、検体の取り扱いや遺伝子解析に関わる技術開発を推進。検体保管に伴う、匿名化検体分注処理サービスも受注いたしました。07年に行った事業基盤の強化によって、一連のサービスについて、より迅速に、お客様のさまざまなご要望を取り入れながら、極めの細かいサービスのご提供をすることが出来るようになりました。

このように、バイオマーカー創薬支援事業においては、その事業基盤が年々強化されてきています。当社グループでは、これまで主に医薬品開発の領域に利用されてきたこの事業を基盤として、医療や健康といった、新たな事業領域への展開も進めています。

## メディビックの基盤技術



強化した基盤技術をもとに、さまざまな事業領域への展開も視野に

医療

健康

新領域

## メディビックの強み

これからの医薬品開発の鍵を握るバイオマーカー。お客様のニーズに合わせ、世界最先端のバイオマーカーの探索・利用技術の提供を行っています。

最先端のバイオマーカーに関する情報・技術の提供

世界の戦略パートナーとのネットワークと強力な情報収集力

世界の戦略パートナーと独自の情報・技術ネットワークを築いています。また、米国にメディビック・ライフサイエンス社、中国に上海事務所を設置し、世界の最新動向をいち早く捉えています。

MediBic

PGx試験の戦略立案から遺伝子解析までサポートし、バンキングや解析等GLPIに準拠した高品質なサービスの提供を行っています。

PGxで業界をリード

国内バイオ関連企業をつなぐネットワーク

バイオチップコンソーシアム（JMAC 2007年10月に設立）の立ち上げに参画し、事務局を運営するなど、業界を導く中心的な役割を担っています。

## パーソナルPGxという新しい領域

今まで製薬企業などの対企業向けに遺伝子情報を解析する技術やサービスをパーソナル（個人向け）に提供していく、パーソナルPGx。メディビックでは、個人個人に遺伝子情報に基づいた健康管理を進めていくことで、私たちの健康に豊かなライフスタイルを提供していくことを提案し始めました。

人は生まれつきの体質で、薬剤の有効性や副作用が異なります。また、ある特定の病気になりやすい人、なりにくい人がいます。このような体質の違いは、遺伝子が深く関係しています。個人が持っている遺伝子の違いが、体質の個人差を生み出しているのです。

遺伝子を解析すれば、薬の有効性や副作用が予測できることが多くなってきます。製薬企業は新薬開発のために個人の遺伝子を解析し、新薬の開発を効率的に行おうとしています。

メディビックでは、製薬企業の新薬開発における遺伝子解析結果を用いた創薬支援事業を行ってきています。ただ、日本国内での遺伝子解析を用いた新薬開発は欧米に比べてかなり遅れているのが現状です。



一方で、科学技術は進歩し、多くの遺伝子と病気や体質の関係が明らかになってきています。欧米ではこれらの遺伝子情報を用いて製薬企業ばかりでなく、個人個人の健康管理や予防を行うという考えが出てきています。

メディビックは、従来の製薬企業の遺伝子解析を通じた開発支援のみならず、欧米と同等の個人の健康管理を目指して、個人向けの遺伝子解析及びそれらの結果に基づく健康管理支援を始めています。

## メデイックファーマ、抗がん剤の臨床試験を実施中

### グルフォスファミドの国内第 I 相臨床試験を実施

2007年1月、抗がん剤の候補化合物であるグルフォスファミドの国内臨床試験を始めました。グルフォスファミドは米国企業と共同で開発を行っているもので、すでに膵臓がん、卵巣がん、肺がん、肉腫などを対象として試験が進められてきています。またこの他のがん疾患に対しても、効果が期待されているものです。

国内では当社グループの創薬事業を担う事業子会社である、株式会社メデイックファーマにより、固形がんの患者さんを対象に第 I 相臨床試験が進められています。主に安全性評価および臨床推奨用量について試験を行っています。国内試験においては、今期中の結果発表を目指して試験を進めています。

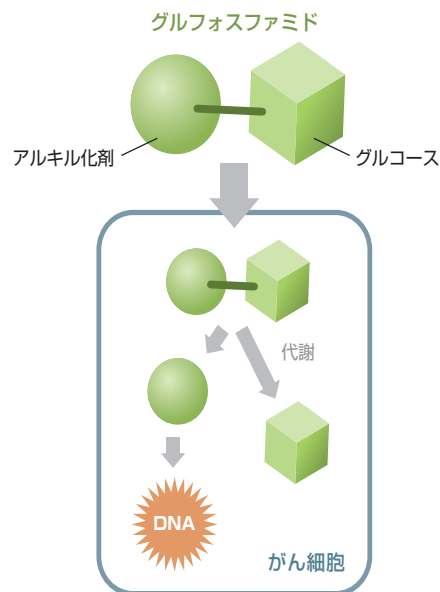
#### グルフォスファミドについて

グルフォスファミド (Glufosfamide) は、アルキル化剤「イホスファミド」の活性代謝物であるイソホスフォルアミドマスタードとグルコースとがグリコシド結合した抗がん剤です。グルフォスファミドは、低酸素状態にある「がん細胞」が、細胞増殖を維持するために正常な細胞よりも多くの糖を取り込む性質をもつことから、がん細胞の糖の取り込みを利用して細胞内に移行し抗がん作用を表わすものと考えられています。グルフォスファミドには、イホスファミドによく似た作用を持つ一方で、中間代謝産物を作らないために、イホスファミドに比べ、副作用（腎毒性）が少ないと考えられています。

#### グルフォスファミドの海外臨床試験の進捗について

これまでに、米国のパートナー企業であるスレッシュホールド社によって、米国にて、すい臓がん、卵巣がん、肺がん、肉腫などの試験が行われてきました。すい臓がんの試験では、全体としては統計的有意差を得るまでには至らなかったものの、一部の患者さんについて効果が見られたことから、すい臓がんの治療に一定の役割を持つことが示唆されました。(2007年9月発表)

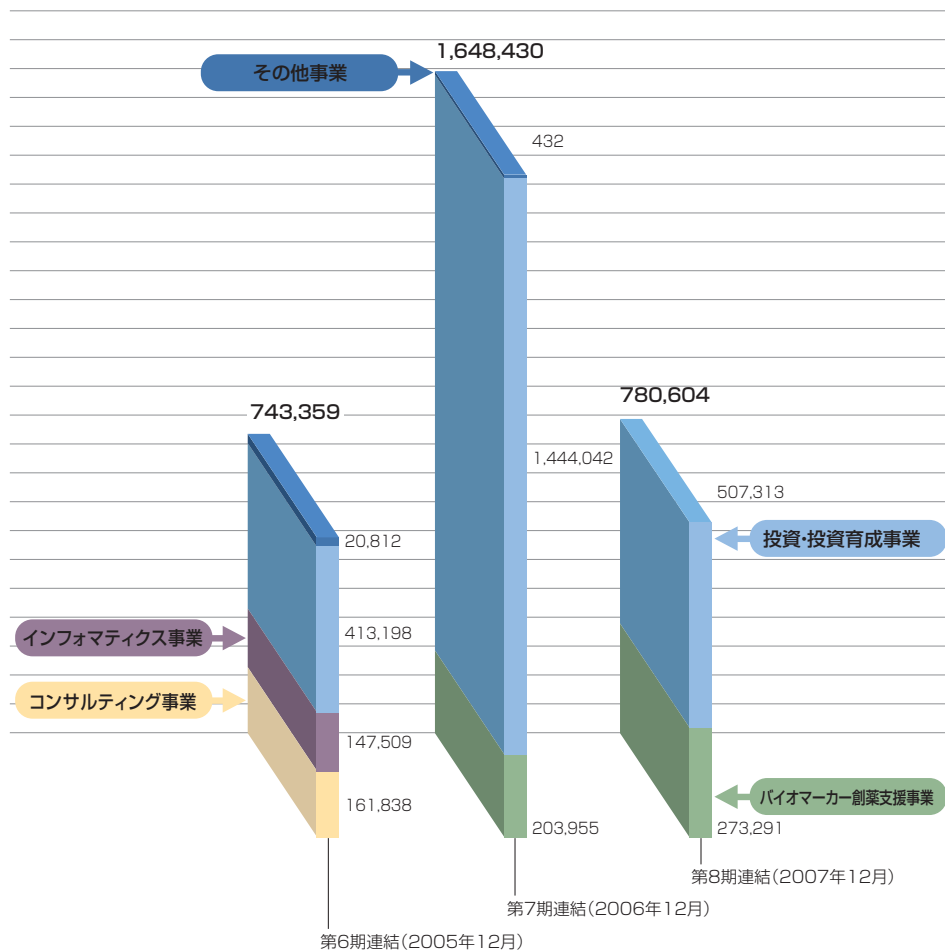
また、卵巣がんや肺がんについては、統計的有意差を得るまでには至りませんでした。一方、肉腫（軟部組織肉腫）の第 II 相臨床試験の結果では、治療効果が見られました。(それぞれ2007年10月、2008年1月発表)



グルフォスファミドはがん細胞に取り込まれると糖がはずれ、その細胞の増殖を抑制する。

## 第8期営業活動のご報告

■ 事業別売上高の推移 (単位：千円)



■ 主要経営指標の推移

		第6期連結 '05/12	第7期連結 '06/12	第8期連結 '07/12
売上高	(千円)	743,359	1,648,430	780,604
経常損失	(千円)	411,537	38,642	868,551
当期純損失	(千円)	425,452	203,322	1,314,775
純資産	(千円)	2,280,194	2,319,847	2,068,349
総資産	(千円)	3,273,769	4,079,717	2,213,989
自己資本比率	(%)	69.7	56.0	93.0

## ● 営業の概況

当連結会計期間（第8期2007.1.1-2007.12.31）において、当社は2007年6月に事業再構築プラン（新生MediBIC Group 2007）を発表しました。これにより、当連結会計年度の下期より事業区分（バイオマーカー創薬支援事業、創薬事業、投資・投資育成事業）から、投資・投資育成事業が連結決算から切り離されました。その一方で、バイオマーカー創薬支援事業の事業基盤の強化を進めました。7月には、その一環として、SMO（臨床治験支援機関）の株式会社サイトクオリティーを子会社化し、連結対象に含めました。

年間を通し事業の再構築や財務の安定化、事業基盤の強化が着実に進んだものの、受注案件への対応での若干の遅れや、事業再構築プランの遂行により下期以降投資・投資育成事業の売上が連結対象から外れたこと、さらに、

## ● 部門別の概況

### バイオマーカー創薬支援事業

バイオマーカー創薬支援事業の連結売上高は、273百万円、前年同期比34.0%の増加となりました。

遺伝子発現解析ソリューションとして、RNA増幅試薬の販売展開やバイオマーカー受託解析サービスにおいて、多くの案件を獲得いたしました。また、当社が独占販売権を有する遺伝子発現解析ソフトArrayAssist<sup>®</sup>シリーズの販売についても、サポートサービスを伴うライセンス年間契約を多く受注いたしました。前年より提供開始しているPGxトータルソリューションサービスについては、アフィメトリクス・ジャパン社との協同支援サービスの開始や、SMO事業を展開する株式会社サイトクオリティーの子会社化など、サービスの一層の強化を行いました。

当連結会計期間においては、PGxに関わるガイドライン等の整備の遅れなどが要因の一つとなり、予定より受注の遅れが見られましたが、全体としては、売上高は前年より増加となりました。

## ● 次期（2008年12月期）の見通し

次期の業績見通しにつきましては、連結売上高427百万円、経常損失395百万円、当期純損失381百万円を見込んでおります。

### バイオマーカー創薬支援事業

PGxトータルソリューションサービスを中心に、より一層の売上の獲得と利益率の向上を図っていきます。また事業基盤の拡充とともに他事業への活用を進めてまいります。

上場や事業進捗の遅れが見込まれている投資先について、投資先の実情を勘案して評価損や投資損失引当金等を計上した結果、前年に比べ大幅な減少となりました。

結果として、当連結会計期間の売上高は780百万円、前年同期比で52.6%の減少となりました。また、経常損失868百万円（前年同期比829百万円の増加）、当期純損失1,314百万円（前年同期比1,111百万円の増加）となりました。

### 投資・投資育成事業／創薬事業／その他事業

投資・投資育成事業の連結売上高は、507百万円、前年同期比64.9%の減少となりました。

主に当連結会計期間の中間期までの投資・投資育成事業の売上によるものです。当連結会計期間において発表した事業再構築プランに則り、投資・投資育成事業を下期から連結対象から外したことから、前年に比べ大幅な減少となっております。

創薬事業では、1月に固形がんを対象とした、抗がん剤グルフォスファミドの国内第I相臨床試験を開始しております。なお、創薬事業は現在研究開発段階にあるため、当連結会計期間における売上高の計上はありません。

### 創薬事業

今期に続き、抗がん剤グルフォスファミドの国内臨床試験を中心に進めてまいります。

### その他事業

バイオマーカー創薬支援事業で培った基盤技術を軸として、健康・医療市場において、より個人に近いテラーメイド創薬の実現を推進する新サービスを展開する予定です。

※業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。様々な要因の変化により、実際の業績は本業績と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

# 財務諸表

## POINT①

連結子会社(株)メディビック・アライアンス(現Asia Private Equity Capital)が7月に持分法適用関連会社に異動したため、投資・投資育成事業に係る資産が減少し、同社に対する貸付金が増加しました。

## POINT②

平成16年発行の円建転換社債型新株予約権付社債の満期償還や長期借入金返済、第三者割当増資により、負債が大幅に改善され、自己資本比率は93.0%となりました。

## POINT③

固定資産に対し、将来におけるキャッシュ・フロー予測の見直しを行い、減損処理いたしました。

## POINT④

バイオマーカー創業支援事業は、当初の予定よりも、受注が遅れておりますが、前期比34.0%増の売上となりました。  
 (株)メディビック・アライアンスの異動により、投資・投資育成事業は、大幅に減少、また投資損失引当金等の計上により、売上総利益も減少いたしました。

## 連結貸借対照表

単位：千円、単位未満切捨

科目	当期末 (第8期)	前期末 (第7期)	科目	当期末 (第8期)	前期末 (第7期)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	973,839	3,183,034	流動負債	137,304	1,031,682
現金及び預金	302,924	1,400,038	買掛金	43,337	2,826
受取手形及び売掛金	78,699	78,187	② 1年以内償還予定社債	—	800,000
有価証券	—	291,197	未払費用	28,327	63,992
営業投資有価証券	—	1,313,886	未払法人税等	8,271	92,102
① 投資損失引当金	—	△103,165	その他	57,369	72,762
関係会社短期貸付金	460,153	—	固定負債	8,335	728,187
その他	132,063	202,891	② 長期借入金	5,552	720,000
固定資産	1,240,150	896,682	その他	2,783	8,187
有形固定資産	20,084	23,702	負債合計	145,639	1,759,870
無形固定資産	4,648	348,263	<b>純資産の部</b>		
③ 化合物利用権	0	345,534	株主資本	2,074,422	2,295,427
その他	4,648	2,729	資本金	2,058,391	1,580,106
③ 投資その他の資産	1,215,417	524,716	資本剰余金	2,591,588	2,113,370
投資有価証券	54,638	304,090	利益剰余金	△2,575,502	△1,397,994
関係会社株式	56,805	56,805	自己株式	△55	△55
関係会社出資金	—	111,012	評価・換算差額等	△15,072	△10,474
① 関係会社長期貸付金	1,037,347	—	新株予約権	9,000	3,600
その他	66,627	52,809	少数株主持分	—	31,294
資産合計	2,213,989	4,079,717	純資産合計	2,068,349	2,319,847
			負債・純資産合計	2,213,989	4,079,717

### 連結損益計算書

単位：千円、単位未満切捨

科 目	当期 (第8期)	前期 (第7期)
売上高	780,604	1,648,430
バイオマーカー創薬支援事業	273,291	203,955
④ 投資・投資育成事業	507,313	1,444,042
その他事業	—	432
売上原価	735,436	732,402
売上総利益	45,168	916,028
販売費及び一般管理費	871,114	912,481
営業利益又は営業損失(△)	△825,946	3,546
営業外収益	19,243	3,921
営業外費用	61,849	46,109
経常損失	868,551	38,642
特別利益	1,065	45,328
特別損失	445,780	100,898
税金等調整前当期純損失	1,313,266	94,212
法人税、住民税及び事業税	1,850	88,712
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△341	20,398
当期純損失	1,314,775	203,322

### 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：千円、単位未満切捨

科 目	当期 (第8期)	前期 (第7期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 802,440	282,746
投資活動によるキャッシュ・フロー	295,259	△ 304,772
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 565,096	983,463
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,320	△ 1,888
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,073,599	959,548
現金及び現金同等物の期首残高	1,681,233	716,073
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	—	5,610
連結除外による現金及び現金同等物の減少額	△ 304,709	—
現金及び現金同等物の期末残高	302,924	1,681,233

当 期 2007年1月1日～2007年12月31日

前 期 2006年1月1日～2006年12月31日

### 連結株主資本等変動計算書

単位：千円、単位未満切捨

	株主資本					評価・換算 差額等	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
平成18年12月31日残高	1,580,106	2,113,370	△1,397,994	△55	2,295,427	△10,474	3,600	31,294	2,319,847
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	478,285	478,218			956,503				956,503
当期純損失			△1,314,775		△1,314,775				△1,314,775
連結子会社の増減に伴うもの			137,267		137,267				137,267
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					—	△4,597	5,400	△31,294	△30,492
連結会計年度中の変動額合計	478,285	478,218	△1,177,508	—	△221,005	△4,597	5,400	△31,294	△251,497
平成19年12月31日残高	2,058,391	2,591,588	△2,575,502	△55	2,074,422	△15,072	9,000	—	2,068,349

## 会社の概況 (2007年12月31日現在)

設立 : 2000年2月17日  
資本金 : 20億5,839万円  
所在地 : 〒105-0003  
東京都港区西新橋2-11-6  
ニュー西新橋ビル5F  
事業所 : 上海事務所(中国)  
社員数(連結) : 38名(常勤役員を含む)  
主要取引銀行 : 株式会社三菱東京UFJ銀行 新橋駅前支店  
株式会社三井住友銀行 日比谷支店  
株式会社三菱東京UFJ銀行 新橋支店

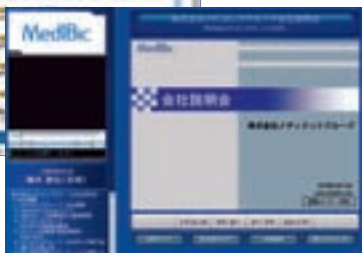
グループ会社 : (株)メディビック  
(株)メディビックファーマ  
(株)サイトクオリティ  
MediBIC Life Sciences (US)  
(株)Asia Private Equity Capital

### 取締役

代表取締役社長 橋 本 康 弘  
専務取締役 川 井 隆 史  
常務取締役 中 江 裕 樹

### 監査役

常勤監査役 白 井 和 郎  
監査役 木 下 郁 大 治  
監査役 富 岡 和 治



<http://www.medibic.com/>

当社はIR活動の一環として、ホームページによる情報発信の充実に努めています。

詳細な事業概要、ビジネスモデルの解説、財務データの適時掲載の他、会社説明会などのIRイベント開催についてもお知らせしています。ぜひアクセスいただき、ご活用をお願いいたします。

### ●会社説明会ストリーミング

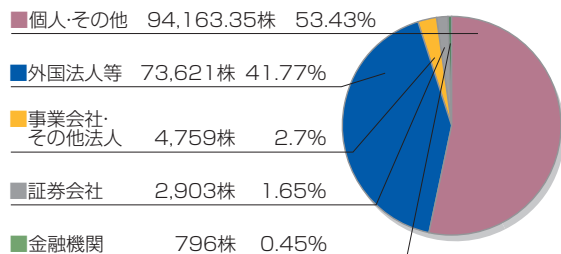
当社ホームページ上にて、会社説明会の様子を動画配信でお伝えしています。経営陣の肉声による詳細な戦略解説や質疑応答を通して、よりわかりやすい形で当社をご理解いただけます。

## 株式の概況 (2007年12月31日現在)

### 株式状況

発行可能株式総数	350,000株
発行済株式の総数	176,242.35株
株主数	9,299名

### 所有者別株式分布状況



### 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ジェネレーションジャパンマスター ファンドケイマンエルピー	67,000	38.35
橋本 康弘	20,626	11.80
シービーホンコンコリアセキュリティーズ デポジトリートレード	3,127	1.78
有限会社山興企画	1,869	1.06
野村證券株式会社	1,359	0.77
藤井 衛	1,193	0.68
青柳 満喜	1,000	0.57
泉 辰男	1,000	0.57
竹野 健一	712	0.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	708	0.40

### 資金調達にかかる新株予約権等の状況

銘柄	発行年月	発行総額	累計行使額	行使率
株式会社メディックグループ 第3回新株予約権(※)	2007年12月	3億453万円	0円	0.00%

※行使価額は9,851円です。なお、発行要項に基づき修正される場合もあります。



## ■ 株 主 メ モ

● 決算期	12月31日	● お知らせ	住所変更、配当金振込指定・変更に必要な各 用紙、及び株式の相続手続依頼書のご請求 は、株主名簿管理人のフリーダイヤル <b>0120- 244-479</b> 及びホームページ ( <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/tetsuzuki_01.html">http:// www.tr.mufg.jp/daikou/tetsuzuki_01. html</a> ) にて24時間承っておりますので、 ご利用下さい。(証券保管振替制度をご利用 の株主様は、お取引の証券会社にお申し出 下さい。)
● 定時株主総会	3月中	● 公告の方法	電子公告(当社ホームページ <a href="http://www.medibic.com">http://www. medibic.com</a> )。但し、やむを得ない事由 により、電子公告によることができない場 合は、日本経済新聞に掲載いたします。
● 株主確定基準日	12月31日	● 証券コード	2369
● 株式の売買単位	1株		
● 株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		
● 同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (お問合せ先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)		
● 同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店		

## ■ 当冊子についてのお問合せ先 ■

株式会社メディビックグループ<sup>®</sup> 管理本部

本社 / 〒105-0003 東京都港区西新橋2-11-6 ニュー西新橋ビル5F TEL. 03-6744-2882

